



2026年度（令和8年度）

「第2回 「不登校」を考える学習会」を開催しました。

2026.9.11（金） 小郡市生涯学習センター内 セタホール

演題：不登校の子どもに伝えたい7つのこと

本年度「第2回「不登校」を考える学習会」を9月11日（金）18:30より、小郡市生涯学習センター内 セタホールにおいて開催しました。

保護者や学校関係者だけでなく、区長さんをはじめ、公民館長さん、民生委員・児童委員さんなど、60名を超える方々に参加していただき、大変有意義な時間となりました。また、今回は、初めての試みでオンラインでも参加を呼びかけ、会場に来ることができない方にも視聴していただくことができました。

今回の講師は、クラーク記念国際高等学校教育顧問（前 C&S 音楽学院学長）である毛利直之先生にお越しいただきました。全体講演会の第1部では、「不登校の子どもに伝えたい7つのこと」というテーマで、具体的な話を交えながら講演いただきました。第2部では、C&S 音楽学院時代の生徒のインタビュー動画や、音楽を通して立ち直っていった当事者のお話を聞かせていただきました。最後に、毛利先生ご自身が、歌声を披露しえくださり、参加者の心に響く素敵な学習会となりました。



不登校の子どもに伝えたい7つのこと

- その1 問題があるのはあなたではなく、学校のシステムのほうなのかもしれない。
- その2 学校に行かないことが原因で、コミュニケーション力が落ちる訳ではないし、学力そのものが落ちるということもない。
- その3 無理はしなくていい。でもベストを尽くそう。
- その4 好きなことを思い切りやろう、好きなことには意味がある。
- その5 山を登り始めるのは、どこからでもいい。大切なことは、決めて登り始めることだ。
- その6 1万時間ひとつのことをやり続ければ、必ずプロと呼ばれるまでになる。
- その7 たとえ、どんな絶望的な状態だったとしても、どう生きるかという選択の自由は自分に残されている。



希望の出発点



詳しくはこちらを読み込んでご覧ください。

【実際の卒業生の声】

○変わる必要はなかった！感情の表し方と出す場所を変えるだけでよかった！

これまでずっと、自分が変わらないといけないと思って生きていた。人と比べたり、強がってみたり、自分をつくろってみたり…そんな余計なもので「本当の自分」を覆い隠してきた。でも、C&S音楽学院では、私は変わる必要はなかった。私は私のままでいい。と思えた。「ありのままの自分を素直に表現してごらん。君たちは君たちのままで、こんなに素敵なんだよ」という言葉に背中を押された。



○この学校には「多数派」というものが存在しなかった！

C&S 音楽学院は、「個性の開花をめざす学校」だった。みんな、一人ひとり違うのが当たり前で「違うからいいんだ。むしろ、違いを際立たせていくんだ」という方針・指導に救われた。

【毛利先生から、大人に向けたメッセージ】

～正しいことを言うことだけが、大人の仕事ではない～

不登校の子どもたちの反応はさまざまで、100人いれば100通りの反応がある。しかし、ひとり残らず、心の中で「変わりたい」と思っている。「このままでいい」と本気で思っている人は一人もいない。「変わりたいのに変われない」から苦しんでいる。子どもたちは、自ら伸びようとしている。それさえ信じてあげることができれば、私たち大人はぶれずに待つことができる。子どもたちは、子どもたちのタイミングで立ち上がることができる。梅は梅、桜は桜。それぞれに咲くべき時と場所が違うのです。みんなより早く咲いたから偉いわけじゃない。みんなと同じ時期に咲いたからいいわけじゃない。大事なことは、**自分らしく、自分のタイミング**で爛漫と咲き香ること。こどもたちは高く、高く飛翔していこうとする意志と翼を備えている。そんな子どもたちを信じて…たとえ、子どもたちが自分自身を信じられなくなっても…。だって、**子どもたちは信じ続けてくれる大人を必要としている**のだから…。



参加者アンケートより



- 子どもに伝える7つのこと、とても心に響きました。その1（気持ちを軽く）から順に、その7（力強く自分の人生を選択）へ。「ありのままの自分」「違いを認める」「子どもを信じる」「大人の方が先に変わることが大切」と思いました。歌声、パフォーマンスとても素敵でした。
- 子どもに伝えてほしい7つのことの内容は、どの子にもあてはまることだと思います。子どもを信じて、とても大切だと思えました。大人の私でも励みとしていきたいです。
- 「みんな違っていいという事が大切だ」というご意見、まさにその通りだと思った。そうすると、やはり学校のシステムにもメスを入れるべきと思えました。
- 子どものことを思いながら、でも親の私の心にも力を頂き、すごく救われました。未来に光が見えるような方向性や心の持ち方を教えていただきました。救いのあるお話でした。
- 卒業生たちの明るい様子を見ると、可能性を信じることの大切さを感じました。
- 子どもたちは、悲鳴を上げて大人社会をより良い形にしようとしてくれているのだと思えました。声にならない・考えがまとまらない子どもたちの心の奥にある声が聞こえてくるようでした。これまでの自分の考えが浅かったなと思えました。

